

# 音楽科学習指導略案

4年2組 36名 指導者 木場幸乃

本授業では、以下の検証を行うものである。  
鑑賞領域において比較する「思考スキル」、関連付ける「思考スキル」を用いた発問は、曲のよさや面白さを感じ取ったり、友達と意見を交流したりする手立てとして有効であったか。

## 1 題材 拍の流れにのろう

教材 「風のメロディー」 平野祐香里作詞／鹿谷美緒子作曲  
『パールギュント』第1組曲から「朝の気分」 グリーグ作曲  
「友達シンドバッド」 芙龍明子作詞／橋本祥路作曲  
「せんりつづくり」  
「まきばの朝」 文部省唱歌／船橋栄吉作曲

〔共通事項〕 リズム、旋律、拍の流れやフレーズ、8分の6拍子

## 2 指導計画（総時数9時間）

主な学習活動【評価規準】	〔共通事項〕	時間
1 「拍の流れにのろう」という題材で、4分の4拍子や8分の6拍子の流れに乗って、演奏したり聴いたりする学習に取り組むことを知る。 【関：拍の流れに乗って体を動かしたり、拍子を感じ取ったりしながら歌おうとしている。】 <b>風のメロディー</b>	拍の流れ (8分の6拍子) タイ フラット	2
2 拍の流れを感じながら優しい気持ちで歌う。 【技：8分の6拍子の流れに乗り、リズムや音程に気を付けて歌っている。】 <b>朝の気分</b>	拍の流れ (8分の6拍子) 反復 変化	1 (本時)
4 拍の流れに乗って歌詞唱をする。 【技：4分の4拍子を感じ取りながら伴奏に合わせて歌っている。】 5 音楽の速度や強弱を工夫し、伴奏のリズムに乗って歌う。 【創：曲想やリズムの面白さを感じ取り、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。】 <b>友達シンドバッド</b>	拍の流れ (4分の4拍子) 8分休符 タイ	1  1
6 音符カードを組み合わせて4分の4拍子で2小節のリズムをつくる。 【関：拍の流れを感じ取って、リズムをつくる学習に進んで取り組もうとしている。】 7 つくったリズムと5つの音を使って、旋律をつくる。 【創：5つの音の組み合わせを工夫し、どのように旋律をつくるかについて発想をもっている。】 8 つくった旋律に打楽器のリズム伴奏を加えて演奏する。 【技：リズムや音の組み合わせを工夫して、つくった旋律をリコーダーで演奏している。】 <b>せんりつづくり</b>	拍の流れ (4分の4拍子) 反復 変化 付点4分音符 8分音符	1  1  1
9 情景を想像し、旋律の音の動きを感じ取りながら歌う。 【創：歌詞の表す情景の移り変わりを思い浮かべながら、歌詞の内容にふさわしい歌い方になるように工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。】 <b>まきばの朝</b>	拍の流れ (4分の4拍子) 2分音符 付点2分音符 スラー	1

## 6 本 時（3／9）

### (1) 目標

8分の6拍子の流れに乗ったり、場面の様子を想像したりしながら聴くことができるようにする。

### (2) 評価規準

8分の6拍子が生み出す曲想を感じ取ったり、楽器の音色やその響き合い、旋律の反復や変化などによってつくられる楽曲の構造に気付いたりしながら音楽を聴いている。 【鑑賞の能力】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、既習教材曲を歌うことで、8分の6拍子の流れを意識できるようにする。  
 「見通す」過程では、学習の進め方について話し合うとともに、鑑賞して感じ取ったことなどを「曲のおすすめ」として紹介することを確認し、見通しをもって意欲的に鑑賞できるようにしたい。  
 「追究する」過程では、8分の6拍子の特徴を感じ取らせるために、手や体を動かす活動や拍子の異なる曲と聴き比べる活動を取り入れる。また、場面の様子を想像しやすくするために『ペールギュント』の劇物語のあらすじと第1組曲の場面について知らせる。  
 「磨き合う」過程では、曲全体を通して聴く活動を設定する。また、学習して感じ取ったことを交流する活動を充実させることで、一人一人の感じ方の違いを認め合い、拍の流れに乗ることのよさやおもしろさを感じ取らせたい。  
 「振り返る」過程では、めあてに沿って学習を振り返るとともに、本時の鑑賞曲に関連する曲を紹介することで、鑑賞の活動に更に意欲をもてるようにする。

(4) 本時の展開 [ ] 子どもの意識 □ 指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価
つかむ	7	1 8分の6拍子の流れに乗って、「風のメロディー」を歌う。 [ ・優しい感じの歌だったね。 ・体を動かしながら歌おう。 ] 「音タイム」で既習教材曲を歌わせることで、8分の6拍子の流れを想起させる。 指揮をしたり体を動かししたりして聴くことで、拍の流れを全身で感じることができるようになる。
		2 学習問題と追究方法を確認する。 「朝の気分」はどのような拍の流れなのだろうか。
見通す	3	3 学習の進め方を確認する。 [ ・体を動かしながら聴いてみよう。 ・朝のどんな場面を表した曲なのだろう。 ・最後に「曲のおすすめ」を紹介しよう。 ] 8分の6拍子の特徴を感じ取ることができるようにするために、他の拍子の曲と聴き比べたり、旋律の楽譜を見比べたりする。
追究する	20	4 「朝の気分」を聴く。 (1) 聴いた感想を話し合ったり、体を動かしながら聴いたりする。 [ ・朝にぴったりのさわやかな曲だね。 ・流れるような感じがするよ。 ・こんな動きが合うよ。 ・この曲も8分の6拍子なのかな。 ] (2) 楽器の音色や旋律の変化をもとに場面の様子を想像しながら聴く。 [ ・始めと終わりは同じ旋律だね。 ・ペールの寂しい気持ちがどんどん明るくなっていくような感じがするよ。 ・いろいろな楽器の音がするね。 ] ※ 8分の6拍子が生み出す曲想を感じ取ったり、楽器の音色やその響き合い、旋律の反復や変化などによってつくられる楽曲の構造に気付いたりしながら音楽を聴いている。(体の動きや発言)
		5 曲全体を聴いて感じたことを話し合ったり、「曲のおすすめ」を紹介したりする。 [ ・8分の6拍子の流れに乗るには、「風のメロディー」と似た動きがいいよ。 ・演奏している楽器が増えたり変わったりにしているね。 ・この曲の優しくて、横に揺れる感じが好きだよ。 ] ○ 8分の6拍子の流れに乗って聴くことができている子どもには、更に、楽曲の構造に気を付けて聴くことができるよう助言する。 ○ 拍の流れを意識できない子どもには、一緒に体を動かしたり、拍を数えたりしながら聴くようにする。
磨き合う	10	
振り返る	5	6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 [ 8分の6拍子は2拍子と似ていて、横に揺れるような感じがする。 ・指揮をしながら聴くことができたよ。 ・他の曲も聴いてみたい。 ] 学習のめあてをもとに学習を振り返らせ、曲想に合った拍の流れがあることを確認させ、『ペールギュント』の他の曲を紹介することで、鑑賞の活動に更に意欲をもてるようにする。